

別冊 I メイト便り第 18 号

I メイト 交流の愉しみ

ーアジ風に乗って I メイト交流はひろがるー

特集：日本のジェンダーギャップについて問う

NPO 法人 アジアの新しい風

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻 2-18-22-414
TEL/FAX 03-5426-6714 <http://www.npo-asia.org>

2022 年 9 月 18 日 発行

目 次

まえがき

理事長代行・OBOG 事務局担当 上 高子 2

1. 元 I メイト学生 (OBOG)

・政治家も管理職も楽しくないから	難波美慧	4
・ランキングの基準について	唐霊慧	5
・タイと日本のジェンダー意識格差	ドウアンケーオ・スットプラータナー	6
・女性の意識・マインドセットでは？	チャン・トゥ・チャン	7
・タイのジェンダーギャップ事情	チョンニカン・ヤンタラット	8
・日中のジェンダーギャップの特徴	王鶴	9
・タイの指数はアジアでは上位だけれど	ジンダー・ペッパイリン	10
・日系企業での勤務とジェンダー	プティター・パンタイ	11
・ジェンダーギャップ指数とは	レー・ティ・ミー・チー	12
・学校の教育内容の一つとして	カオ・トゥエット・ニュン	13

2. I メイト学生・・・ジェンダーギャップについての意見交換

・古畑仁一 ⇔ レ・マイ・ホン (貿易大学)	14
・島村美智 ⇔ グエン・ダン・ソン (貿易大学)	15
・奥山正昭 ⇔ 鄒宇涵 (清華大学)	16
・鈴木一美 ⇔ 劉明洋 (清華大学)	17
・上 高子 ⇔ 周垠畴 (清華大学)	19
・浅山久美子 ⇔ 馬思宇 (清華大学大学院・架け橋 G)	20
・奥山正昭 ⇔ 臧龍凱 (清華大学大学院・架け橋 G)	21
・小林俊介 ⇔ ヴァニャ ダルマギタ ロヴィタ ディーマー (UNPAD)	22
・上 高子 ⇔ エルヴィナ リシャ アンディニ (UNPAD)	23
・大石 純 ⇔ カーンシリー・ピティパット (タマサート大学)	24

* UNPAD はパジャラン大学

3. 鷗友学園女子中学高等学校

・松本理子 (高 1 年)・小宮美鈴 (高 2 年)・三野心暖 (高 2 年)	25
---	----

編集後記

理事・I メイト交流担当	奥山寿子	26
正会員 編集担当	原谷洋美	

*掲載名は敬称略とさせていただきました

まえがき

OB・OG 事務局担当理事 上 高子

熟年男性がほぼ半数を占めるこの NPO で、「ジェンダーギャップ（性別格差）」をテーマに特集を組むことには少しためらいがありました。しかしながら、このアジアの新しい風（以下 アジ風）を立ち上げたときの動機のひとつは、「日本人が外からこの国を見ることができるようになりたい」であったことを思い起こし、取り組むことに決めたのです。

次ページに掲載する記事は、アジ風新聞第 76 号の一部です。アンケートに答えてくれた元 I メイト学生にもっと詳しく尋ねてみたい、と思いました。10 名の OG（アジ風歴の古い順に掲載）から寄せられたエッセイを読むと、日本社会が男性優位であることについての調査結果に、それほど反論はありません。テーマのせいで、女性ばかりの投稿になったということがあるのかもしれませんが。多くに母国の状況にも言及があり、アジアが欧米に比べてジェンダーギャップが大きいということは明らかようです。

だからと言って、この指数をそのまま受け入れて、政治、経済への女性の進出を推し進めるのに賛成ということよりも、優位である男性が必ずしも既得権を享受して幸せであるようにも思えないとの論調が多く見受けられます。確かに、別のデータでは、幸福指数は日本では男性より女性の方が高い、ということを示しています。また、生まれつきの性徴や、文化的背景を考慮せず、男女を同列に論じていいか、という疑問もあります。それでも明らかに、男性が優位な政治と経済構造が長く続いたために、アジアの国々では、中でも日本社会が、硬直化して柔軟性を失っていることは否めないと思うのです。その証左のひとつに、昨今の文化・芸術の世界では、自国を離れた場所で、アジアの女性が高い評価を得てきているニュースをよく目にします。それは、長い忍従の期間を経て、解き放たれた女性が羽ばたいている、という風に見えます。

今はコミュニケーションの時代と言われます。力に寄らず、対話による紛争の解決のためには、相手への共感力が求められますが、間違いなく、それは女性の方が優っているように思えるのです。アジ風では多様な意見を交わす機会が多く、さまざまな接点を持つことを体験していくうちに、会員の方々から、「アジ風に入会してから、気づきが多く、多様な視点がもてるようになった」というコメントが寄せられるときは、この NPO を立ち上げた一人として、一番うれしい瞬間です。

アジ風は多文化共生を標ぼうする NPO ですから、ものごとを一律にグローバルスタンダードで断じることにはしないでいたいと思います。両性は、お互いにコミュニケーションによる歩み寄りによって、ギャップを埋め合わせていくべきであって、昨今の大国間でよく見られる、対決や分断は持ち込みたくないのです。微調整による Happy medium（中庸）の探求といいいましょうか、論語では「過ぎたるは猶及ばざるがごとし」というではありませんか。ただし、折り合い点を見つける時、力の強いほうが弱いほうに少し譲る、ということが大事だと思うのです。

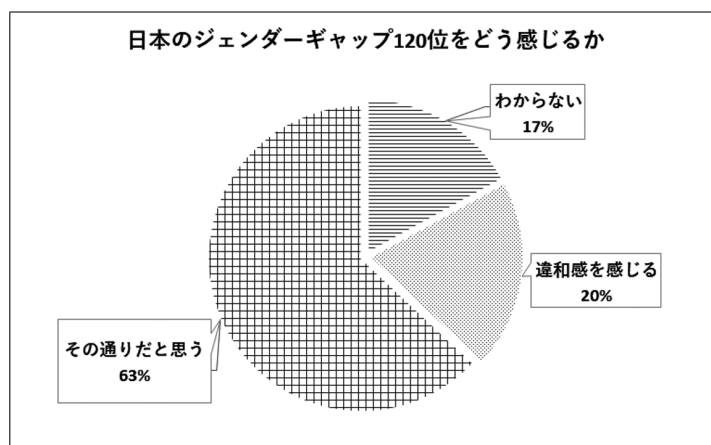
この冊子に登場した 10 名の OG たちは、いずれアジ風の事務局を担う人材になってくれるのではないかと秘かに期待しています。「アジアの若い人材を育てる」というのは、我がアジ風にとって、重要な目標であることを再確認しました。

最後に、元メイト、現 I メイト会員のみなさんへ。学生たちの日本語表現の修正とコメントをありがとうございました。これからもよい交流が長く続きますよう、願っています。

以下、アジ風新聞 76 号から抜粋

元Iメイト学生から見た「日本のジェンダーギャップ」

世界経済フォーラムが毎年実施している「ジェンダーギャップ 2021」によると、調査対象の 156 か国の中で、日本は 120 位という不名誉な結果（政治、経済、教育、健康の四項目）が出た。そこで元Iメイト学生に、それがどのように受け取られているか、アンケートを実施した。なお、交流校が属する諸国の調査結果は、タイ 79 位、ベトナム 88 位、インドネシア 101 位、中国 107 位。アンケート時期 2022 年 1 月、対象総人数は 121 人、回答 41 人（回答率 34%）。



（コメント欄を国別に分類して掲載 - 省略）

多文化共生という理念を掲げるアジ風だから、「それぞれの国に歴史・社会、文化的背景があり、一律のグローバルスタンダードで判じるのはどうか」という意見もある。ただ、政治・経済の領域では、データが明らかに男性優位であることを示しており、教育レベルが高く、健康で幸福な日本女性が社会で生かされていないというのは国として損失であろう。近年政治がその見直しやギャップの是正に動き出したことは間違いない。本来、どのような生き方を選ぶかは本人が決定できる多様性ある社会がのぞましい。

ジェンダーの問題は、今後大事な争点や課題になっていくと思われるので、アジ風は会員みんなでしっかり取り組んでいきたい。（OBOG 会事務局 担当理事 上 高子）

元Iメイト学生 (OBOG)

政治家も管理職も楽しくないから



難波美慧 (旧姓張慧)

アジ風歴 19 年 北京第二外国語大学出身

川崎在住 正会員

「教育レベルや健康状態が世界トップレベルなのに、どうして日本の女性は政治家や企業の管理職になりたくないのかな」と私。「それは賢い女性ほど政治家と管理職に魅力を感じないからでは、つまりなれないよりはなりたくないのではないか」と主人。アジアの新しい風で紹介のあった「世界ジェンダーギャップ指数日本 120 位」に関するアンケートに対する、これは我が家でのリアルの会話である。

来日して 18 年間、ザ・日本的企業にも 10 年以上勤めて、さらに帰化してから毎年選挙にも行くようになった私にも、日本の政治は魅力から程遠いもので、頭がいい女性なら政治家よりもっと面白い職業を選んだほうが良いとすら感じた時がある。

企業の管理職においても、営業センス抜群の女性先輩がマネージャーに抜擢された途端に早々と退職してしまった。海外のお客様と楽しそうにトークし輝いていた彼女が、日本に帰ると、男性マネージャー達に囲まれているガラス張りの会議室からは窮屈そうに見えた。

人間は職業を選択する上で使命感がもちろん 1 つの要素であるが、多くの人に選ばれる仕事には、やはり面白さや達成感があることが大事だと思う。しかし、一般論的に世の多数の女性から見て、日本では政治とマネジメントで社会や自分の生活が劇的に変わるものかというところではない。ましてや、非生産的な政治やマネジメントのやり方に人生の貴重な時間を費やされてしまうことになれば、達成感を味わいにくく、その前に疲弊してしまうことが多く感じられる。

日本がジェンダーギャップを解消するには、女性の職業選択や自信喪失などに対策する教育が必要だと言われるが、私はそれより根本的解決策は性別とは関係ない生産性の向上が先だと思う。

世界と同じ物差しで政治家の女性比率という指標が項目に入っている以上、日本の政治が真に魅力的でなければ上位浮上はまだまだ先だと私は主人に言った。「では、日本人男性のあなたは政治家や管理職になりたいですか」と質問したら、「僕は自分の研究を極めるのが楽しいから、管理職にはなりたくない」と返ってきた。やれやれ、旦那に出世してほしい妻としてはがっかりする一方で、日本においては政治家も管理職も楽しくないからが原因だと自論をもつ私としては「やっぱり」と嬉しく思ってしまう。

人間はやはり楽しいことをしたいものだ！

元Iメイトのひと言

日本人と結婚し、子育て、長年日系企業で勤務してきた難波さん。ワークライフバランスのジェンダーギャップを体験、見聞してきたことと思います。「管理職に女性が少ないのはなりたくないから」という難波家のご意見に同感です。理由は「楽しくないから→他に魅力的な仕事があるから」かもしれません。ご主人のように！（井村倫子・バンクーバー在住）

ランキングの基準について



唐霊慧（トウ・レイケイ）

アジ風歴 15 年 北京第二外国語大学出身

上海在住 日本語教師

このテーマについて夫婦で話し合った結果、主人・于奥（ウオク）さんが中国語で原稿を書き、それを私・唐霊慧が翻訳しました。

中国は女性地位ランキングでかなり後ろに並んでいることに驚いた。そんなに低いはずがないと思った。しかし、よく考えてみると、また不確かな感じがした。

この認知の差の背後に、中国の快速発展と更迭があるかもしれない。

身の回りのサンプルを見ると、女性の地位は中国で極端に異なる。年齢、教育レベル、地域経済、そして文化伝統の影響に関係があるのだ。

中国はまだ発展途上国で、国土が広く、地域経済の発展が不均衡である。経済の発達した地域に女性の地位がより高く、特に上海・江蘇省・浙江省・安徽省辺りの「長江三角形地域」と北京では、若い女性の独立と平等意識が強い。遠い地方、例えばチベットや内モンゴルなどでは、体の丈夫さが生産力の証しになるので、女性の社会地位が比較的に低いのである。

1977 年に大学入試が再開され、高等教育を受けられる人が増え、若い女性が世界を見ることができ、男女同権への認知が深まって、女性の地位は高くなっていた。それに比べて、お年寄りは古い観念を変えるのはなかなか難しい。伝統文化の影響が深く浸透する地域、例えば裕福な広東省では、一部の家庭で、女性は食卓で食事することすら許されず、男性のみ座って食事する権限がある。

そして、生育によって生まれた就職難などの性別差別も中国女性の抱える課題の一つである。この点は日本や韓国より少しましだろうがやはり存在している。

最後に、ランキングの基準について概観した。日本は基本的な保障などにおいて、ほぼ男女平等ができ、男女の中小学校就学率、平均寿命は全部世界一であるが、男女収入の差、政治に関わる女性数などの項目が日本のランキングに影響したのだ。

例えば、「奥さんを打っていいのか」という質問に対し、84%の日本人は「どんな状況でもよくない」と答えたに対し、ランキング4位のルワンダでは、よくないと思う人は10%にも及ばない。よってこのランキングの的確さに疑問を持っている。中国の女性に、ランキング上位の国例えばルワンダに行きたいかと聞くと、嫌だと答えるのが大半だと思う。

編集部註

唐霊慧さんは、留学中の13年前に江戸川事務所でアジ風のアルバイトをしてくれていました。その後も事務局とのコミュニケーションが続き、3年前にはご夫婦で日本へ新婚旅行。直後の2020年4月コロナパンデミックでは、上海から会員へ200枚余のマスクを寄贈してくれました。今回の寄稿は例外として夫婦の合作を認めました。

タイと日本のジェンダー意識格差



ドゥアンケーオ・スットプラターナー
アジ風歴13年 タマサート大学出身
バンコク郊外在住 大学教員（日本語教師）

タイ人30代の女性で、ボウと申します。私は、タイ・ラーヨンと日本・東京における日系企業に勤めた経験があります。ジェンダー意識について、大変複雑で難しい問題ですが、意見を述べたいと思います。初めに、タイでは日本と比べると、「ジェンダー」の問題意識は鷹揚です。

例えば、

① 私は両親ともに公務員の家庭で育ちました。母は、家庭を守りながら仕事をしています。タイ社会では、女性が働くことが一般的です。また、仕事より家庭を大事することは普通で、子供や家族事情が起きた場合、同僚は当然のこととして仕事対応をしてくれます。一方、日本では、仕事に対して責任感が強く、なかなか休めません。規則では有給をとれても、会社を休んだらその分は誰かに対応してもらわなければならないでしょう。自己事情で同僚に迷惑をかけてはいけないなどを考えないと日本社会に溶け込めない雰囲気が存在します。

② タイにおける日系企業

タイでの子会社工場で通訳として勤めていた経験では、女性でもスキル・能力があれば、ラインリーダーや班長などになれます。タイの女性はバリバリと責任をもって働くと言われています。研修支援の役割で日本出張もしました。日本工場の女性社員はやはり少なめでタイの工場と雰囲気が違ってきます。一方、出張で来泰する日本人はほとんど男性社員です。実際に本社に行って、男性上司は、女性社員に安全面、妊娠、家庭事情という主な理由で海外出張させないと感じました。しかし、日本でも最近女性社員にも海外主張の機会や昇格に力を入れつつあります。それは、会社本来の意識ではなく、品質だけではなく人材教育、男女平等、多様文化化など必要な要因にも力に入れないと、グローバル会社として認められない世相のためようです。内情は、外国人には芯の部分任せないし、キャリアパスも見せません。それは、外国人に対して信頼性が低いからです。また、「いつ結婚、妊娠するか」「家庭がもったら仕事を継続するか」「いつ帰国か分からない」「外国人社員（特に女性）より日本人（特に男性）社員でしょう」といった固定観念が女性、特に外国人女性に対しての意識レベルを低くしています。それらは、直接に言われはしなくても、ひしひしと感じました。

以上のように、タイと日本両国ともにジェンダーギャップの課題がありますが、日本はG7の中で男女平等課題が一番難しい国ではないでしょうか。政府主導により、また国際事情により、表向き、会社や組織はある程度変わっても、その中身が変わっていくには、生身の人間が家庭においても社会においても、相手を認め、敬い、自分自身を大切にしていける、その積み重ねが肝要だと思います。

元Iメイトのひと言

りぼんさんの文を読んで、本当にそうだ、と思われました。人種や性、宗教等に関わらず、その人の才能を活かし幸福に生きられる社会の実現には、相手を知り敬い、自分自身をも理解し尊重することが不可欠ですね。（森 郁子）

女性の意識・マインドセットでは？



チャン・トウ・チャン

アジ風歴 12 年 貿易大学出身

シンガポール在住 日系企業勤務 正会員

経済フォーラムに発表された男女格差のレポートから見ると、日本の点数が 2006 年から 2022 年までは少ししか改善されず、世界の低いランクを維持している。こちらのランキングは政治・経済・教育・健康という 4 つの分野から評価されるが、日本の教育と健康の点数は常に高いものの、政治・経済の点数は非常に低い。私は、これに対して、つぎのような疑問を持っている。

女性の政治・経済への低い参加率は悪いことなのか？

結婚したら仕事をやめ専業主婦になるのは個人の選択肢と個人の自由である。一方、仕事を続けたい女性は続ける機会が与えられ、能力に見合っている報酬を得られたら、特に何の問題もないではないか。但し、少子高齢化社会の日本では労働人口が減少しており、社会・経済を支えるために、まず女性がもっと労働人口に参加することが求められるているのだろう。

女性の政治・経済への参加率が低いのは 100% 社会や制度のせい？

教育・健康分野において、男女間の格差がほとんどない。つまり、同じ健康状態で同じような教育機会を与えられるのに、仕事になると大きな格差が出る。その原因は、女性が活躍できるように社会や制度がまだ十分整備されていないとも考えられるが、個人的な選択にも左右されているだろう。

総務省統計局によると、1980 年から 2021 年まで共働き世帯の数が徐々に増え、専業主婦世帯が減りつつある。但し、女性が低技能・低賃金の仕事に就いている割合がまだ多いそうである。

株式会社博報堂の「博報堂キャリアジョ研」は、2021 年 6 月に 20 ～ 30 代女性に対して「女性のキャリア意識調査」を行った。その結果によると、20 ～ 30 代の女性 500 人で「管理職になりたい」は 3 割、「リーダーになりたい」は 4 割だと分かった。特に、“管理職になりたくない理由”は、「目立ったり、人目を引いたりすることが苦手」の他、「大きな方針や指針を示すことが苦手」「チームを率いることが苦手」などである。これを見ると、日本社会や制度というより、そもそも女性の意識・マインドセットが女性自身の活躍を妨げていると考えられる。上記の理由は日本人の女性だけでなく、世界中の女性が持っている特徴である。但し、それを乗り越えるリーダーシップと意欲を育てるのは教育の役割であるし、せっかく良い教育機会を受けているのに、仕事を通じて社会に何かインパクトを残さないと、もったいないと思う。

以上は、日本企業に勤める外国人女性（私）の率直な意見です！

元 I メイトのひと言

チャンさんとマッチングしてから 12 年。学生時代、日本の OL 時代、そしてシンガポールへ転勤して 2 年、その成長を見守ってきた。「グローバル人材になりたい」というチャンさんの夢と一緒に追っているつもり。親戚のおばさんと思って頼ってほしい。（上 高子）

タイのジェンダーギャップ事情



チョンニカン・ヤンタラット

アジ風歴9年 タマサート大学出身

バンコク在住 日系企業勤務

世界経済フォーラムの定義により、ジェンダーギャップとは社会的、政治的、知的、文化的、経済的な成功または態度に反映される男女の違いです。ジェンダー間の経済的参加度および機会、教育達成度、健康と生存、政治的エンパワーメントの4種類の指標を基に世界156カ国の格差を算定し、ランキング付けされている世界ジェンダー・ギャップ報告の発表により、今年のグローバルのジェンダーギャップ指数は68.1%縮小になりました。このギャップがなくなり、真の男女平等に取って代わられるのは、さらに132年かかる可能性があります。

タイの総合指数は、世界156カ国中79位を取りました。経済的参加度および機会は15位、健康と生存は37位、教育達成度は92位、政治的エンパワーメントは130位にランクされています。タイ経済の成長により、タイの労働市場がより多くの労働力が必要になり、国は女性の出勤を促進しました。職場でのジェンダー差別は取り組む必要のある主要な問題の一つなので、女性と男性の平等を達成するために、国家が行動するための枠組みを提供する法的メカニズムを作成する努力がなされました。タイは、2002年に女性および家族開発機関が設立され、男女平等が国の使命として公式に初めて認められました。現在、タイの女性は国を動かす上でより大きな役割を担っています。大企業の幹部、衆議院議員、そして元首相は全員女性です。タイでは2013年に初め唯一の女性首相が誕生しました。これらは、可能性が性別だけに依存するものではないことを反映しています。

個人的な意見ですが、タイでは、仕事におけるジェンダーギャップはほとんどありませんが、「いい女」というマインドセットと信念、セクハラ事案の被害者処罰において、タバコを吸うのは悪い女性と見られる社会的価値観のイメージなどのライフスタイルにおけるジェンダー差別は、より頻繁に見られます。男性ならやってもいいという偏見は今の社会にはまだ続いています。今まで女性の権利と男女平等に関する運動が続いたおかげで、2020年に妊娠中絶法が合法化されました。その法律は女性が自分の身体に権利があると反映されています。

一方、今日のタイ社会は、キャンペーンや教育を通じて、LGBTQ+グループのジェンダー平等に焦点を当てています。これは、このコミュニティのカップルが男性と女性と同じように結婚し、結婚の権利を持つことができるようにするのを主張しています。成功しているとは言えませんが、少なくともタイ下院議員の中にはLGBTQ+の方を選出しています。したがって、ジェンダーギャップまたはジェンダー平等は、もはや男性と女性だけに限定されるものではなく、LGBTQ+も含まれているのではないかと私自身は考えます。

元Iメイトのひと言

ジェンダーギャップが、男女間の問題ではなく、LGBTQ+全体を視野に含むべきとの意見に、全面賛成したいです。広い視野はすべてに必要、ミーさんの成長を嬉しく思います。

(島村美智)

日中のジェンダーギャップの特徴



王鶴（オウ・カク）

アジ風歴 9 年 清華大学出身

東京在住 日系企業勤務 賛助会員

男女格差指数の順位が 100 位より低い日本と、母国中国で暮らしたことしかない私は、男女平等に近い社会で暮らしている人々はどのような生活を送っているか、どのような場合に女性は不平等と感じるか、メディアを通じた想像に止まっている。

日中でいうと、中国の大都市の男女格差は日本より小さいような気がする。それは主に職場における感触である。中国では管理層の女性が少なからず、女性社長も珍しいものではない。しかし、バリバリ働ける女性たちは仕事と子育てを両立させることができるのは、十分な財力があれば、往々にしてその女性の母親が娘のために献身しているからである。長い産休・育休を取りにくい、あるいは、それを取ったら昇進の可能性が急低下することが一因であろう。それは真に格差がより小さいといえるだろうか。

日本はダイバーシティ・インクルージョンの推進に注力している状況に加えて、全域職（転勤を伴う職）になりたい女性が少ないため、外国人の女性である私は就職の際に、競争率が男性陣より低いというメリットを享受した。しかし全域職にならなかった日本人の女性は、真に自由意志でそのようなチョイスをしたらどうか。国会議員に占める女性の割合が 1～2 割に過ぎない社会で、共働きがマイノリティーの社会で、そのチョイスは社会が選ばせたものではないだろうか。その一方、地域職（転職を伴わない職）は女性 100% で、男性をほぼ雇わないようである。そのような格差で女性のキャリアが制限される一方で、実は一生地元で働きたい男性も自分の希望を通せなくなると考えられる。

世界中が苦慮している新型コロナウイルス対応と、ヨーロッパで起きている戦争や、アジアでも、きなくさい紛争が懸念される昨今である。世界がグローバル化の潮流からスローダウンしつつあるこのような時代に、残念ながら、ジェンダー平等は近くなるより、遠くなるのではないかと危惧している。

編集部註

元 I メイトの河村新造さんは、重篤な病気になられて緩和ケアを選択された 5 月末にアジ風を退会されました。会員であられた 9 年間に大勢の I メイトのサポートをしてくださったのですが、中でも王さんは最初のマッチング学生で以来 9 年間ずっとその成長を見守られました。去る 8 月 20 日に逝去されました。

タイの指数はアジアでは上位だけれど



ジンダー・ペップパイリン

アジ風歴8年 タマサート大学出身

バンコク郊外在住 日系企業勤務

タイの「ジェンダーギャップ」指数の順位は 156 カ国の中 79 位になっており、日本より上位という結果になっています。私はその通りだと言いきれませんが、タイは男女格差が少ない国だとも思いません。

タイは日本と違い、「共働き社会」だと思われるかもしれませんが、それは男女格差が存在していないというわけではなく、「賃金の差」があるからだと思います。例を挙げると、日本の大学卒の一般職の初任給の場合、20 ～ 22 万円程度もらえると思いますが、タイの場合は 1 万 8000 バーツ、つまり 5 万 3000 円くらいしかもらえません。そのためタイの普通の家族にとって、共働きはやむを得ない事情になっています。

ところが、政治の参加に関して、タイの女性政治家は確かに日本より多いイメージはありますが、皆に認められているというわけではなく私は思います。「女性だから」という理由でセクハラ発言や軽蔑などネットなどでいじめられているケースもかなり多くあります。女性は政治家に向いていないと思う人も結構います。

私自身の経験ですが、以前職場でミスしたことがあります。その際、男性の同僚に「大丈夫、あなたは男ではなく女だから上司（男性）は絶対あなたのことを責めない。女に生まれてよかったね。」と言われたことがあります。同僚は慰めるためにそのようなことを発言したかもしれませんが、それを聞いた私は別に嬉しいとは思ってなく、ジェンダー差別は本当に存在しているとは思いませんでした。

私にとって、世の中では男女格差が完全に存在しないことはあり得ないと思いますが、最近「男女平等」ということを認識している人は多くなっているから、これからはいい傾向になっていくのではないかと思います。一人だけだと、社会を変える力はないと思いますが「男性だから」や「女性はこうすべき」など、まずバイアスの考え方を見直したら、ジェンダー問題を減らしていくのではないかと私は思います。

元Iメイトのひと言

ペップパイリンさんとIメイトにになって8年。現在、バンコク郊外の日系企業に勤務されており、取引先イベントを控え、大変忙しかったようですが、快く寄稿してくれて感謝。コロナで、2年以上会っていませんでしたが、今回の寄稿を通じ、久々のメールのやり取りで順調に成長してくれていると感じ、うれしく思っています。これからも素晴らしく、楽しい人生となるよう適宜サポートし、さらなる成長を期待したいと思います。

（含本一雄）

日系企業での勤務とジェンダー



プティター・パンタイ

アジ風歴 7 年 タマサート大学出身

バンコク在住 日系企業勤務

タマサート大学卒業後、23 歳の私はタイの日系企業で通訳として勤め始めた。この職場は生産工場で、日本の生産システムが根底にある。日本の会社はタイでも日本の雰囲気がする。毎朝、日本語の体操をして朝礼をする。面白いのは、日本語を勉強しなくても、日本語の体操音楽や、朝礼という言葉、製品状態表示の帽子という言葉が、男性女性を問わず、すべての従業員に通じていることだ。勤務期間の長い社員はほぼ片言の日本語で会話もできて、仕事の雰囲気はとても楽しい。

日本との関係を紹介すると、各部署を担当する日本人男性の担当グループがおり、技師のサポーターの仕事をしている。他の日系企業ではタイに定期的に在住するらしいが、私の会社は違う。5、6 年前、会社の方針で在住から、新モデル開発の時だけ、出張して来ることに変更した。女性が出張してくることはほとんど無い。コロナ感染拡大の前なら、日本人の生産技師がタイに来たり、タイ人が日本、中国に行ったりしていたが、今、仕事はほぼ日本からのリモートワークとなった。距離、時差で現場が見えないのはかなり難しいが、テクノロジーのおかげで、インターネットやビデオコールをフル活用しながら、お互いの判りたいという意味を含めて、仕事が進められている。

ところが、ハイテクな生産作業の場面以外は、当社は毎月、改善活動や、品質向上等を発表している。タイの工場、中国の工場、日本の事業所を含めて、各拠点でアイディアを発表し、採用できることを選択して改善していく。各国における独立の会社ではなく、全世界の関係会社でグローバルな一つの国際会社認識を築くような方針である。この会社の性別については、女性は 70% で、男性は 30% である。課長、副課長、作業員はどの性別でもいる。仕事する時には、性別を問わず尊敬し合って、女性だから男性だからと相手をおとしめたり、昇給不可能になったりしないので、社内のジェンダーギャップはあまりないと思う。私も、同僚も、性別の違和感を全く感じていない。

この国際会社で働く上で、色々な人会遇到して話して、仕事面以外はライフ、つまり生き方を交流することができた。国、文化、年齢、性別が違って、人間性が同じならば、仕事とともに、関係性を作って、さらに楽しく仕事に向かう。もちろん対立や喧嘩をすることもあがあるが、お互いが誤りを知り、心の底から尊敬し合えば、良い友好が結べる。ダイバーシティならではである。

私の日系企業での社会人経験はまだ 2 年だが、これからも勉強することを続けていく。

元 I メイトのひと言

写真を撮るとき、雨の中に放置された自転車や、壁に映る影を被写体にする彼女には、ひょっとするとジェンダーギャップは陰ではないのかも知れぬ。これから先、経験を重ねながらどのように感じてゆくのか、年の離れた友人にもこの感性を見せ続けてね。 (原谷洋美)

ジェンダーギャップ指数とは



レー・ティ・ミー・チー

アジ風歴5年 貿易大学出身

奈良在住 奈良女子大学院修士課程 学生会員

世界経済フォーラムが公表しているジェンダーギャップ指数のもとで性別平等を批判しても良いのだろうか。

我々は、ある一つのデータのジェンダーギャップ指数を見て、ある国の男女平等についてすぐに評価する傾向がある。しかし、我々は、ジェンダーギャップ指数が高い国で性別平等が維持され、低い国ではされていない、ということが本当に確認できるのか。

日本人の見方では女性が男性より経済、政治等において、不利があると言う人がいるが、ファッションや芸術等の職種では男性が女性より不利になっていることに気づいた人が少ないのではないだろうか。女性は家族に対して経済的責任が重くないから、彼女は自分がしたい仕事を目指せる。しかし、男性は家族の世話をする役割を持っているから経済的安定をもたらす仕事を彼らに強いる。では「経済」「政治」「教育」「健康」の分野から作成されたジェンダーギャップ指数の元で、どのぐらい、男性への不平等が挙げられているのだろうか。

いずれにせよ、完全平等を求めるのはありえないのである。さらに、各国には独自の社会規範、文化、習慣、性別による分業が存在し、それらの価値観はその国の人々によって決定され、維持されている。我々は、自分たちが作成した性別平等の基準だけにに基づいて、その国を判断してはいけない。私たちが不平等だと思う事でも、その国の人にとっては、違って感じているかもしれないからだ。

元Iメイトのひと言

アジアの中でもジェンダーギャップにおいて、日本が下位に位置しているのは分かるような気がします。私はベトナムの駐在が長く、思い当たる点が多々あるのです。採用に男女差はなく、産休制度も法律で整備され、産休明けに退社する社員は皆無でした。共働きが大部分で、幼稚園・小学校の送り迎えは、朝は母親・夕方は父親と分担していたので、日系企業として勤務形態にも配慮が必要でした。また政府の窓口の幹部や取引銀行は、やや女性の方が多く、女性幹部が当たり前のような環境でしたから、日本に帰国した際は、役所も銀行も幹部は男性が多く優位で、社会全体が前例重視で息苦しさを感じた記憶があります。チーさんは、ベトナムのバックグラウンドを冷静に分析していて、国・国のそれぞれ多様性があり、それを尊重する事も重要と考え、さすがです。

チーさんとは2017年ハノイで会いました。当初は日本語がたどたどしくゼスチャーを交えてのコミュニケーション。交流は日本語添削を少なく、お互いの文化的な話題が主でした。その後奈良女子大へ一年留学し、卒業後にまた同大学院へ。N1取得を目標に日本語学習に取り組む、見事合格しました。嬉しい知らせは、この度日本での就職が内定した事で、私も自分のことのように喜んでます。

(佐藤賢三)

学校の教育内容の一つとして



カオ・トゥエット・ニユン
アジ風歴4年 貿易大学出身
横浜在住 日系企業勤務 正会員

ジェンダーギャップは現在全世界の課題になっています。ベトナムをはじめ、多くのアジア諸国では男女の違いにより生じる格差がかなり高いと思います。その原因は「重男軽女」という昔からの固定概念の影響を受けたからであると考えられます。

社会の発展と共に、人々の思想も多少変わってきて、性別も含め、一人一人の個性を尊重していきませんが、男女を差別することもよくあります。例えば、ベトナムでは共稼ぎが一般的で、女性は結婚・出産後も仕事を継続する傾向にあるため労働参加率は男女ともに高水準にありますが、女性が管理的ポストに占める割合は低く、非正規労働者として低賃金で働く女性の割合も多いです。また、地方のエリアや山岳などには、男の子を産まないと周りの人から尊重してもらえないこともあります。

インターネットで調べてみたら、世界中で現状を改善するために、色々なことに取り組んでいると分かりました。ヨーロッパでは積極的に父親が育児に参加することを促進しており、父親の育児休暇取得率は7割に達成しているようです。アメリカは女兒を支援する教育プログラムを実施し、女性が少ない傾向のある職種の男女差への対策を行い、英語が母国語でない子供達への特別授業を実施しています。児童婚が深刻な社会問題となっているアフリカでは、女性への教育、啓蒙活動などの支援を行っています。その他、アジア諸国も男女平等に対する様々な取り組みをしています。

私の母国ベトナムは政府の改善策により、過去と比べてジェンダーギャップの状況が改善されてきました。例えば、女性の定年退職年齢は引き上げられて、男女間の定年退職年齢が調和されました。一方、セクシャル・ハラスメントに関する規定が強化され、家事分担によるワークライフバランスも改善されました。

しかし、この世界経済フォーラムのジェンダーギャップ指数は「経済」「政治」「教育」「健康」の4つの分野のデータから作成されていますので、経済面と政治面だけを中心にして、各対策を出したのでは足りないと思います。教育面と健康面も重視しなければなりません。私にとって、一番大切な分野は教育です。国民全員がジェンダー平等について十分に認識できたら、他分野の状況も改善でき、ジェンダー格差がさらに縮小される可能性もあります。できればジェンダーギャップの教育は学校の教育内容の一つとして実施したほうがいいのかと思っています。

元Iメイトのひと言

ニユンさんが書いたように、性差別は、人々の心の中に文化として伝えられるので、政治や経済面での対策だけではギャップを無くすことが難しいですね。子供のころからの早期教育が大切ですね。その意味では、ベトナムでも日本でも教育がとても重要だと思います。

(武田 高)

レイト学生と会員

ジェンダーギャップについての意見交換

【レ・マイ・ホンさんと 古畑仁一さん】

ホン→日本のジェンダーギャップが世界 116 位（2022 年）については妥当だと感じます。



具体的な理由はわかりませんが、なんとなくそのような印象を持っています。多分、政治家や企業のリーダーである日本人の女性をあまり知らないためかなと思います。

この問題について意識が低い理由は、男性が仕事をして家を支える責任を持つ、女性は子供とかを育てる責任を持つという昔の役割分担の考え方のせいだと思います。そのため、男性は家庭のことより仕事で地位が高いのが当たり前だと考える人がたくさんいます。その通りだと考える女性も少なくないようです。それで、将来はそのような男性と結婚するだけで十分だと考える女性があります。そのような理由で、この問題は重視されていないと思います。

実はベトナム（83 位）も日本も東洋文化の影響を受けているので、この問題が存在することは理解できます。しかし、現在のベトナムではその問題をうまく改善しつつあります。具体的な事例としては、政府機関では重要な役職を負担している女性があります。例えば、国会副議長や保健相などです。会社のリーダーもいます。

私の意見では、男性は女性より優れていることがありますが、女性が男性よりも優れていることもあります。ジェンダーギャップを埋めることは必要です。でも、ジェンダーギャップを埋めるだけのために自分の得意でないことをしなければならないのですか？ 本当に大事なことは、男性ばかりでなく、女性も自分の優れたことを活用できることだと思います。



古畑→日本の政治分野は、3バン（地盤・看板・鞆）と世襲が幅を利かせ政治が家業になっている議員が多いので、若い世代、特に女性の政治への新規参画が増えるのには相当の時間を要すると思います。経済分野は改善の兆しが見えていますが、経営者層だけでなく管理者層の意識改革が重要です。

なお、僭越ながらホンさんの最後の段落を私なりに補足すれば次のようになります。「男女ともそれぞれ優れた能力を持っているが、女性は能力を十分に発揮できない現実がある。ジェンダーギャップを埋めることは必要だが、指数値に固執しすぎて個々人の適性を犠牲にするようなことがあれば本末転倒である。重要なのは、社会的・文化的障壁を乗り越え、一人ひとりが自分らしい適性や能力を存分に発揮できることだと思う」。同感です。

【ゲン・ダン・ソンさんと 島村美智さん】

ソン→先進国の中で日本のジェンダーギャップが最下位であることは、驚きにあたらない。



以前日本を調べた時に、政治制度において、女性の首相は一人も見ることがないし、大企業などで CEO として女性が組織を率いたり、大きいプロジェクトを主に負担したりすることは滅多にないと感じたからだ。ベトナムに比べると、日本の社会は男女の差別が大きくて、男性のほうが仕事や政治などの分野で優遇されているとされる。

ベトナムでは、最近ジェンダーギャップが段々と縮小しつつある。例えば、女性が結婚した際、日本と違って収入が減らずに、仕事を続けることが出来る。また、ベトナムの政治制度では、女性が重要な位置を占めるのは、国の繁栄と考えられている。女性の CEO が率いて、利益を儲ける大企業も多くある。家庭でも、女性が主婦業に専念することなく、会社で自ら好きな仕事をするようになってきている。そのおかげで、ベトナムのジェンダーギャップは、減少していつている。

私としては、ジェンダーギャップを減らすために、将来結婚した際、子供を育てたり、家事をしたり、サポートをするつもりだ。それなら、妻は仕事を辞めず、家族生活のバランスが取れると考える。

島村→ベトナムの若者としての意見を有難うございます。仕事の上で、日本より男女差が少なく、女性が働きやすい環境のように感じます。最近は、日本でも、学業を終えた女性が働くこ



とが、一般的になり、キャリアを目指す女性も多いです。私が 20 代のころは「寿退職」という言葉が、普通に使われていました。つまり、結婚を機に、退職して家庭に入ることを、良しとする考え方でした。個人差はありますが、現在では、結婚後、さらには出産後も仕事を続けたい女性が増えています。問題は、家事の負担と、子供を預ける場所です。

保育所が足りず、親にも預けられず、仕事が継続できず悩む女性が多いです。また、家事も女性が負担するという慣習がまだ残り、積極的に協力する男性も多いとは言えません。

ベトナムの女性に状況を聞いたら、ソン君と同じ答えが返ってくると思いますか？

ソン→女性の観点からだと、ちょっと違うかもしれません。ジェンダーギャップは、まだ残っているかもしれません。習慣的に、女性には、責任の大きい仕事はさせないというような事はあるかと。自分は男なのではっきりとはわかりませんが。

島村→日本でもそうですが、男性がジェンダーギャップをしっかり認識することで、社会を変えていくことが、第一歩かもしれませんね。

【鄒宇涵（スウ・ウカン）さんと 奥山正昭さん】

奥山→先日発行されたアジ風新聞 76 号の P2 に、「日本のジェンダーギャップ 120 位」について、OBOG たちにアンケートを採った結果を掲載されています。鄒さんにも届いていると思います。「日本のジェンダーギャップは世界 120 位（2021 年調査対象の 156 か国中）」という事実を、あなたはどのように感じますか。

鄒→正直というと、そのランキングは個人的には信じられません。

文化心理学では、日本は「男性的文化」に分類される文化で、すなわち男女差が大きいです。これは 30 年前の理論ですが、文化心理学においても、日本には大きなジェンダー格差があることはよく認識されています。社会の役割分担の中で、またしばしば男は仕事、女は家事のようです。

私の個人的な経験の中で、日本の社会の女性は「男を魅了する」（中国語で“魅男”と言います）傾向があることは発見できます。例えば芸能業界では、アイドルから風俗業界に至るまで、女性のイメージが男性を楽しませているのです。また、職場で女性たちへの偏見は厳しく見えます。いろんな日本ドラマでもそのことを裏付けます。



日本の現実是我たちの偏見と面白く違います。例えば、痴漢と隔絶するためには、女性専用車というものが出てきました。でも、これは全男性に対する偏見とも言えます。男性も「女性専用車は法律上は男性も乗れます」というスローガンを叫んだ人もいます。

中国社会の男女格差は本当に複雑です。個人主義の浸透に伴い、中国のフェミニズムは近年発展してきており、マイクロブログなどのセルフメディアで急進的ですから激しい方法で対抗しています。ある女性俳優はトークショーで、冗談に男性のフェミニズム減少を暴露して、多くの男性を怒らせました。

同時に近年ますます多くの女性の権利の事件は人々に注目されます。婦女子人身売買問題から強姦問題に至るまで、法律と人情の面から女性への関心を引き起こす一方で、男女格差を拡大させています。フェミニズムの問題に中国では非常に敏感になっています。

奥山→鄒さんのジェンダー観の説明は具体的でわかりやすく、興味深く読みました。

ランキングの評価基準が、経済のレベルや規模だけでなく、社会的な要素、家庭内の要素も含まれていると理解しています。その意味で、男性優位の文化が残っている日本のランキングが低位にあることを私は同感できます。

理想を言えば、男女平等の「意識」を高めることでしょう。ただ、残念ながら社会的に主導権を握る男性側は、口ではジェンダーギャップ解消を唱えながら、具体的なアクションをとれていないことです。意識はあっても行動が伴っていないのが実情です。具体例が国会議員の男女比です。



私が知る限りでは、中国は日本より制度面では男女差別、男女格差が少ないように理解しています。ただ一つの疑問は、国家中枢の幹部で女性が少ないように感じています。中国でも鄒さんのような女性が存分に活躍できる社会になって欲しいですね。

【劉明洋（リュウ・メイヨウ）さんと鈴木一美さん】

劉→ジェンダー問題について、社会学において、色々な理論があります。その中で、フランスの社会学者シモーヌ・ド・ボーヴォワールの『第二の性』は一番有名です。ボーヴォワールは女性とは、歴史的に「もう一方の」性、つまり「通常の」男性から逸脱した性として定義されてきたと主張しています。この著作は、生物学と心理分析学と歴史学の面から、女性の圧迫される原因を分析します。実は、社会学において、フェミニズムはまだ新しい概念です。でも、この分野は益々注目されます。



近年、中国社会で、女性の地位は徐々に高くなります。然し、ウェーバー（中国版の Twitter）で、女性権利に関する問題は常に多くの議論を呼んでいます。女性権利の支持者は、今の女性はあらゆる方面から抑圧されていて、男性は主な原因です。然し、否定的な意見を持っている人、女性権利の支持者の観念は激しすぎると思っています。中国ネットで、この話題にはいつも多くのケンカが伴います。

ジェンダー問題に対して、私の見方はまだ成熟していません。今後の討論を楽しみます

鈴木→2022 年版の「ジェンダーギャップ報告書」が世界経済フォーラムから発表され、中国は 102 位で日本は 116 位です。男女平等の歩みはコロナで停滞している様です。日本は特に政界や経済界での遅れが目立ち、「おじさん大国、ニッポン」というイメージが固定化しています。アメリカの連邦最高裁の判決（女性の反妊娠中絶）は時代に逆行し、LGBT にも保守的かつ批判的な状況を作り出すのでは？という意見もあります。



劉→ジェンダーギャップ問題について、中国の順位はかなり下位ですが、実は、1949 年の前の中国に比べて、中国の女性の地位は大いに向上しました。社会学において、多くの社会学者は「中国の社会主義制度は女性の地位の向上にとって一番のプラス要因だ」という意見を持っています。毛沢東時代、社会では「妇女能顶半边天」（つまり「女性は男性と同じように仕事ができる」）というスローガンがありました。そんな時、女性は工場に就職できたことを誇りに思っていました。男女の地位は等しくなければならぬでした。そうでなければ、民衆は資本主義だと思っていました。幼稚かもしれないが、この考え方は確かに中国女性の地位を大きく改善しました。

改革開放の後、中国経済は益々市場化になっていました。だから、男女の地位、特に職場の地位が違ってきました。私も女性権利の拡大や男女の差の縮小と撤廃を支持しています。然し、私は「男女は生理的な違いがあって、絶対的な平等は難しいだ」と思っています。だから、男女平等のための制度は必要です。毛沢東時代の中国のように、今の欧米諸国で、男女平等は厳粛な話題です。然し、今の中国で、女性権利の概念はまだ完全には受け入れられていません。中国の人口が多くて、社会の格差は男女間において、もっと深刻になっています。だから、男女間の矛盾は激しいです。また、近年の国際関係から、多くの中国人は「女性権利は欧米諸国からの社会平穏を破壊ための陰謀だ」と思っています。

ところで、先月、中国の唐山は性的嫌がらせのニュースがあります。この事件で 3 人の女性

が死んだそうです。この事件は中国のインターネットで、多くの討論が起こりました。今、中国で男女平等を実現するにはまだ長い道のりがあります。

鈴木→私も絶対的な平等はあり得ないと思います。生理的な違いは厳然としてあり、男は子供を産んだり母乳で育てたりすることは出来ません。ジェンダーギャップは生理的な違いを除いたギャップであり、これは平等にすることは可能であり、無くしていくべきだと思います。唐山で先月起こったことはどんなニュースですか？

劉→1949年の後の中国、特に毛沢東時代の中国では、社会の進歩が目立ちました。大躍進政策と文化大革命の時、国家は非常に混乱していましたが、それ以外の多くの政策は後の中国の経済発展の基礎を築きました。

唐山のニュースはちょっと複雑です。まず、確かに先月の10日の夜、唐山のある炉端焼きで、ある男の客はある女の客にセクハラをしました。この男はたぶん不適切なことを言って、その女に触りました。その後、男の人と彼の友達、女の人と彼女の友達（全部は女の人）と衝突しました。最後、この女の人と彼女の友達の三人は重傷を負い病院に入院しました。

このニュースに対して、社会で色々な討論があります。最初、多くの女性がインターネット上でセクハラへの恐怖を訴えていました。ある女性は男性への嫌悪を発表しました。例えば、「蝸蝸（クォナン）はゴミクズだ」などの意見です。（『蝸蝸』の発音は『国男』のと同じです。一部の女性はわざと誤字を書いて中国の男性への蔑視を表現しました。）でも、一部の人は「これらの見方があまりにも情緒的だ」、「この事件は普通の社会的な犯罪だけで、男性への悪口は不必要だ」と思っています。多くの人がネット上で口論しています。



【周垠畴（シュウ・ギンチュウ）さんと 上高子さん】



上→ところで、今日はお願いがあります。

アジ風では交流校の I メイト学生から、「日本のジェンダーギャップについて」感想を募っています。ネットで検索してもらえるとわかりますが、日本女性は、政治、経済において、先進国中とても低い位置です。これについて、周さんの考えを聞かせてください。

なお、下記の URL は、アジ風の広報誌「アジ風新聞」夏号ですが、P 2 の下欄に私のエッセイが掲載されています。これを読んでの感想でもいいですよ。できれば、今月中にお返事を下さい。

周→日本のジェンダーギャップについて、中国の大学生である私が、他国の現象をコメントする資格はないと思っています。なぜなら、その背景を理解し、既存の社会にどのような影響を与え、現地の人々に深く共感できなければ、すべての言葉は淡白なものになってしまうからです。



そこで、ここからジェンダーギャップについての私の抽象的な考えをシェアします。現在の男女共同参画の流れは、基本的に従来の「家父長制」的な社会的価値観を変え、平等的な価値観に置き換えようとするものです。この変革のプロセスには、旧来のシステムに既得権益を持つ人々の反対がある一方で、既存のシステムに慣れた人々の慣性を克服する必要がある、という課題があることは容易に想像がつく。抵抗を少なくし、変換効率を上げるためには、新しいシステムに変えて作り直す方が適切かもしれません。具体的には、第一に、価値判断システムにおけるジェンダー次元の比重を弱めること、第二に、理想的な社会風土という考えに基づいてジェンダー次元に代わる次を積極的に模索すること、第三に、あらゆる階層のルールや習慣からこの次元の比重を強化し、新しい価値判断システムの構築に全当事者の参加を呼びかけることです。

上→忙しいところジェンダーギャップについて意見をまとめてくださって有難うございます。周さんの真面目さが第一から第三への提言にあらわれていますが、ちょっと抽象的過ぎてわかり難いです。要するに既得権益層や既存のシステムとうまく調整が必要、ということでしょうか。

ところでお祖父さまのご逝去を悼み、心からお悔やみ申し上げます。癌は末期だったのですね。こういう哀しみに直面すると、何もする気が起きない、という無力感に陥りますが、あなたは次々と目の前にある課題を片付けなくてはならないので、当面はそれを乗り越えることができたかもしれません。

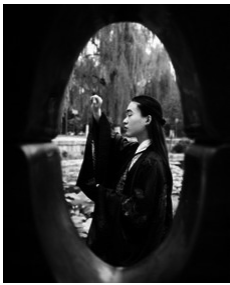
そして、いつか時間ができて、そのことを振り返ると、また哀しみが襲ってきて、生きるということはどういうことかと考え込む時がくるでしょう。一緒におつきあいますので、苦しいときはメール下さいね。

【馬思宇（マ・スユイ）さんと 浅山久美子さん】

浅山→日本のジェンダーギャップは世界で 120 位という報道がありました。この事実を、どのように感じましたか。また日本と比べて、中国ではどうですか。

（馬さんの返信は英文で書かれていたが、浅山翻訳）

馬→ネットで日本人女性の低い地位については知っているのに、驚かない。



ジェンダーギャップの質問は複雑だ、中国も含め東アジア文化の下で女性の権利は保障されにくい。私は客観的な調査をしていないので、自分の周りのことを話すしかありません。

女性の地位は中華人民共和国が設立される以前はとても低かった。設立当初、女性は高い地位を得た。当時、「女性が天の半分を支えられる」とのスローガンがあったが、女性の地位はその後も相変わらず男性より低い。

学校では男女同権だが、卒業すると女性の地位は男性より低くなる。特に農村地帯や貧しい地域では、女子より男子が喜ばれた。ただ、1990 年代以後はこの現象は大幅に減少し、今では殆どない。

差別が最も酷いのは職場だ。職場では女性は労働者と母親の両方が求められ、大きなプレッシャーがかかる。仕事のため出産を延ばし、出産のため失業する女性も多い。資本家は、「弱者」を望まない。

中国では 20 世紀では家事は主に女性が担っていたが、若い世代の夫と妻は家事を平等に分担する。この点で中国女性の方が日本人女性より少しだけ高い。政治の世界では中国の女性も、日本と同じようにとても低い。これは世界共通の問題だ。女性の地位は向上しているが、十分ではない。しかし職場のポジションの比率だけで女性の地位を評価するべきではない。女性が尊敬されているか、男性と平等かに注目すべきである。私の拙い意見だが、家事だけをしたい女性が差別されてはならないし、同じ様に社長になりたい女性も差別を受けてはならない。私たちは女性に男性と比較するのではなく、女性に完全な自由を提供すべきだろう。

中国の男女不平等についても楽観はできない。だが、中国の女性の家事による束縛は少ない。日本の女性が主婦であることと外で働くことをどう捉えているのかは分からないが、もし女性が外で働くことを選べば、他人に理解されないだろうし、多くの困難を抱えると思う。女性の選択肢は殆どなく、これが日本の女性が直面する一番の問題だと思う。

浅山→ 21 世紀になり、個人としての意識を持った若い女性が増え、活躍していると感じます。



各家庭では夫と妻の関係が同じか、妻の方が強い場合もありますが（笑）。最近の問題は離婚した夫が生活費を送らず、妻子が貧困に陥っているケースです。昔のように我慢せず離婚したが、再就職の難しさが壁となって立ち足はだかっています。

【臧龍凱（ツァン・ロンカイ）さんと奥山正昭さん】



（原稿は英文で書かれていたが、奥山翻訳）

臧→欧米諸国が主導する世界経済フォーラムのレポートは参考になるかもしれませんが、真実ではありません。これは主に経済・政治分野での女性の参画に焦点を当てたものです。ジェンダーギャップに対する理解の多様性を考えると、特に定量的な手法による調査の普遍性は損なわれてしまいます。東アジアの国々が同様の調査を主導すれば、違ったものになるかもしれません。

中国では伝統的な孔子の思想が男女格差の原因になっているのは確かです。千年もの間、女性は教育を受けず、政治的な道も閉ざされてきました。女性の美德は、貞操と男性に仕える女性の社会的地位を理想化した物語や話によって教えられました。中国で儒家思想が一番強い地域では、家庭では一般的に娘よりも息子を大切に、娘は祖先の崇拝の儀式には参加しないのが普通です。

しかし、20 世紀後半の運動が、女性の権利の向上に貢献しました。妇女能顶半边 / 生男生女都一样（女は空の半分を支えることができる / 男も女もみな同じだ）などのスローガンは、新しく建設された社会主義中国の男女を平等にしようとするものです。私の世代では、親が家系を継ぐために息子を産むことに固執することはあまりなく、反対に娘の方が注目されることもあります。多くの理由から、現代の中国では、フェミニズムは一般化しており、尊重されています。

日本についての私の印象をのべます。最近、2004 年に放映された木村拓哉と竹内結子が演じる「プライド」というテレビドラマを見ました。亜樹はボーイフレンドがアメリカから帰ってくるのを、何の連絡がなくても 2 年間待ち続けます。彼氏は他の恋愛をすることで非難されることはないが、亜樹は別の男性と恋愛をすることができません。男女の関係において、女性を蔑視する伝統的な考えを間接的に批判するドラマです。それから 20 年近くが経過し、日本の女性を取り巻く環境は明らかに変化してきたと思います。「ドクター X」の 大門未知子は大病院に代表される男性社会のヒエラルキーと戦う役柄であるため、日本の視聴者にとっても好意的に見られています。大門は好きなことに打ち込み、男性リーダーを恐れず、男性権力のヒエラルキーから離れ、理想的な生き方を示していますが、大門は自立しているとは言えません。彼女の仕事のパートナー神原晶は腐敗した病院経営者と交渉して大門をサポートし、彼女のビジネスをコントロールしているからです。奥山さんは神原晶と大門未知子のジェンダーギャップがあったと思いますか？



奥山→日本のテレビドラマを比較して述べているのはおもしろいです。20 年経っても日本ではまだジェンダーギャップは残っています。ドクター X について言えば、神原晶と大門は対等の関係だと思います。非現実的な設定で、ジェンダーを皮肉的にドラマにしていると思います。それが人気の理由かも知れませんね。

【ヴァニャ ダルマギタ ロヴィタ ディーマーさんと 小林俊介さん】

ヴァニャ→日本は中国と同じで、家父長制が強いんですね。昔から儒教と家父長制の影響があり、文化に広がりました。日本は、戦国時代と第二次世界大戦に、政治力学は戦闘力を中心にしてました。その時代には「女性は男性より戦闘力が弱いので、家に家事をして、子を育てるほうがいい」と言うものの見方があるかもしれません。



当然女性より男性はもっと力が強いです。しかし、昔も現在もたくさんいいアイデアは女性も考えられますね。私は女性が自由に意見を伝えることとか、したいことをすることができないのは損失だと思います。現在、「ジェンダーギャップ」がだんだん減っていて良かったです。

小林→日本ではこの間まで、女性が登れない山や、ゴルフ場や相撲の土俵に上がれなかったことがありました。また、日本では子供を育てるときに、男の子は「男らしく」、女の子は「女らしく」と言われ、また、長男が「家」を継ぐため、特に農家では、長男が優遇されていました。家庭での差別はありますか。



ヴァニャ→インドネシアでも「男らしく」と「女らしく」があり、男性は泣くものではないとか、男性はどうして女っぽい色が好きとか、女性は整備工場で仕事してはいけないの話はよく言われます。現在も整備工場に働いている女性やITを勉強している女性は少ないです。「女性は頭が良すぎたり成功しすぎると、誰もその女性と結婚したがる」とも聞いたことがあって、女性として私はどうしてなのかしらと考えていました。

小林→インドネシアはイスラム教徒が多いと聞きます。宗教的に何かギャップはありますか。

ヴァニャ→インドネシアでは「ジェンダーギャップ」に比べて、宗教に関連しているギャップがもっと大きいと思います。全体的にインドネシアを見るとどちらもたくさんあり、特にセクハラと政治の領域。男性でも同じ宗教ではなかったらとても難しい、女性はもっと大変ですね。それでもすごく人気の女性の財務大臣がいます、インドネシアの女性として私はとても誇っています。

イスラム教には断食のことは30日間程度で、断食中の人を配慮するため、レストランや屋台は店じまいされた。ハラールではない（豚肉や油を使う食べ物）の店も店じまいしなければならない。それで、キリスト、カトリック、仏教は自分で料理を作って、断食中の人に見られない場所で食べます。

また、宗教の違う男性にとっては政治は難しいです。「コーランによると、イスラム以外のリーダーはハラーム」とよく言われました。他の宗教的なギャップのこともいろいろあります。

【エルヴィナ リシャ アンディニさんと上高子さん】

上→その後体調は如何ですか？腹痛はつらいよね。私も若いころ生理の前は痛みがひどくて、薬をのんでいました。いい薬があるので、送りますから、住所を教えてください。



ところで、今日はお願いがあります。アジ風では交流校の I メイト学生から、「日本のジェンダーギャップについて」感想を募っています。ネットで検索してもらえるとわかりますが、日本女性は、政治、経済において先進国中とても低い位置です。これについて、エルさんの考えを聞かせてください。

エルヴィナ→日本にも不平等の問題があるのは聞いていたが、大学に入るまで、それがどれほど深刻な問題のかは知らなかった。2年生のとき、講師が「女性なら、日本にある企業で働く前によく考えたほうがいいよ」と言ったのを覚えている。女性、特に外国人にはかなり厳しい環境だと言っていたが、それ以上詳しくは言っていなかった。



ある時、SNS で知人と男女平等について話してた。自分の国、インドネシアが何位なのか調べてみたのだが、結果にあまり驚かなかった。驚いたのは、私が感心する日本が 156 か国中 120 位と、私の国よりもさらに低い順位にあることだった。何が問題だったのだろうかと思った。

世界経済フォーラムで、国の男女平等ランキングを 4 つの要素で分類している。日本は、そのうちの 2 つの要素、すなわち教育水準、または健康と生存者数では、ほぼ男女平等だ。しかし、残りの 2 つ、政治的エンパワーメントと経済的参加については、まだ男女間のギャップが心配される。政治的代表権は、改善のための重要な分野だと思う。日本は現在、政治的エンパワーメントの面においても低いパフォーマンスを示している。日本には女性の国家元首がおらず、国会における女性代表はわずか 10% 程度だ。

政治的な意思決定を行う立場にある女性が増えれば、ロールモデル効果が生まれ、より多くの女性が政治やリーダーとしての役割を担うようになるかもしれない。また、女性の政治力が高い国は、ビジネスリーダーとしての女性のレベルも高くなり、そうなれば、経済参加の要素も向上する。男女共同参画社会が実現すれば、経済的にも、社会的にも、個人的にも、大きな利益をもたらすことができると思う。より豊かで、より希望に満ちた、より健康な国家を実現するために、間違いなく男女共同参画の推進が不可欠なのだ。

上→いい原稿をありがとう。これからの日本は女性の政治や経済への進出によって、少しずつ良くなっていくでしょう。私は男性優位の世界において、比較的是やく働く女性として社会にかかわってきたので、このテーマについては意見が沢山あります。エルヴィナさんがイラストレーターとして自立することを応援しますよ。インターンが決まってよかったね。

【カーンシリー・ピティパット（トイー）さんと 大石純さん】



大石→日本では、ベビーシッターの制度が充実していないので、育児中の女性の負担が大きいです。この為、育児中は仕事を減らして働きたいという女性が多く、それにより、昇進が遅れてしまうケースがあります。また、日本では、夕食をつくることも母親の仕事という意識があるので、女性社員は忙しいです。タイで働く女性は、そういう悩みはないのでしょうか。

トイー→ジェンダー・ギャップ問題は、最近タイでも話題になっています。タイの女性は結婚してもしなくても、子供がいてもいなくても、働く人が多いです。結婚しても、夫の給料だけでは物価が高い首都のバンコックで生活をするには足りないのです、働かなければなりません。

家事や育児は、昔は女性の仕事でしたが、できる人がするようになりました。外で働くのが母親であれば、父親が子供の世話をします。父親も母親も忙しい場合、ベビーシッターや家政婦を雇うこともあります。また、祖父母に任せることもあります。

私の母は私企業で働く女性は昇進が難しいと言っています。理由は女性に従いたくない男性が多いということです。家庭より、職場のジェンダー・ギャップの方が多いかもしれませんね。

大石→タイと日本の違いを、ジェンダー・ギャップのレポートでみてみました。

タイは、Wage equality for similar work のスコアが高いです。

日本はこのスコアが低く、同じ仕事でも男性の給与が高いという慣習が残っているので、母親だけ働くというケースは少ないです。この慣習を変えていくことが大事ですね。

タイは Professional and technical workers のスコアが最高点（1.0）です。職場のジェンダー・ギャップがあると、会社で昇進を目指すより、特定分野でプロとなる方が働きやすいのかもしれないと思いました。

トイーさんは、会社で昇進していきたいですか。それとも、日本語等のプロとなることを目指しますか。

トイー→レポートの内容、面白いですね。タイでは、言語の勉強は女性の方が多く、タマサート大学の教養学部（だいたい言語について勉強します）は約 80% が女性です。

私は、卒業したら、まず会社で働きたいです。会社の働き方が好きになれなかったら、辞めて、日本語を使う他の仕事に変わるかもしれません。

大石→ジェンダーのギャップがあったり、その会社のことを好きになれなかったとしても、日本語ができるという専門能力があれば、会社を辞めて違う仕事に就くこともできるので、専門性を身につけるということは大事ですね。

鷗友学園女子中学高等学校

松本理子 高校1年生

日本はこの調子では男女格差が解消されるまでに132年かかるらしい。今年のジェンダーギャップ指数で上位の国の中には首相が女性である国もあるのに。今世間ではSDGSという目標を掲げてジェンダー平等をなくすと謳っているが、国民の代弁者であり、スーツにバッチを身に着けている国会議員は自分の言葉でジェンダーという単語自体を説明できるだろうか。海外では首相が変わったときに女性？男性？と聞くそうだ。私にはそんな選択肢さえも浮かばなかった。私が社会に出て働くまでの間にそんな質問がされることを祈っている。

小宮美鈴 高校2年生

日本におけるジェンダーギャップは社会の仕組みや人々の認識によって女性自身が「たしなみ」「わきまえ」することで生じてしまっていると思う。性別役割分業は女性が家事や育児を女性としての義務と感じ、古い固定観念に囚われてしまっている。

三野心暖 高校2年生

明らかに他の国よりも低いと思う。自分は女子校にいますので、あまり感じることはないが、父の話を聞いて時々思うこともある。母は、外資系で働いていて周りにも女性の管理職が多く、活躍していて、男女は関係ないと感じているそうだ。日本の企業についてはよく分からないが、多分男性の多くが昔のまま年老いた方が自分のために力を持ち、昔と何も変わらないことを望んでいるだけだったら、日本のジェンダーギャップは埋まらないと思う。



＜2017年新春交流会。会員とのグループディスカッションに参加＞

編集部註

日本人の若者代表として高校生の意見を聞きました。ここに登場した3人の女子高生がジェンダーギャップを実感として捉えるのは社会に出てからだと思いますが、日本社会の現状に問題意識を持つことが、今後のギャップ解消の第一歩になると思い、頼もしくおもいました。

編集後記

今年の別冊のテーマ「ジェンダーギャップ」をとりあげるにあたり、考える糸口として国別の順位を、Iメイト会員から学生に提示していただきました。学校という基本的に平等な場所にいる学生たちが、どれだけこのテーマに関心を持ってくれるのかと危惧していましたが、10名のIメイト学生と3名の日本の高校生が意見を寄せてくれました。自国の歴史や制度の違い、自国と日本との比較、個々人のジェンダーギャップに対する意識など、様々な切り口の下稿が集まりました。日本ではまだまだ男性優位の意識が根底にあり、女性側もそれを受け入れていることに問題があるという意見には、思わず頷いてしまいました。理想は男女の社会的な性差の解消ですが、双方の意識の改革は一筋縄ではいかないようです。

現役学生とのIメイト交流は日常的な会話、お互いの生活や趣味、文化の相違などが交わされていると思いますが、日本語レベルを考慮しつつ、国の歴史や国情の違いがわかる今回のような大きなテーマを投げかけてみるのも、たまには面白いのではないかと思います次第です。

最後に、OG、Iメイト学生、会員の皆さま、鷗友学園の生徒さんたちへ、ご協力をありがとうございました。今後もよりよい交流が長く続きますよう、願ってやみません。

奥山 寿子

ジェンダーに考えを巡らすとき、決まって行き着く万葉集の歌があります。巻13、3312番の「——^{おくところ}奥床に母は寝ねたり ^{いと}外床に父は寝ねたり ^{とどこ}起き立たば母知りぬべし 出で行かば父知りぬべし——」は、母が奥に父は出入口近くに寝ている部屋で娘が恋の思案をする歌です。いやいや、母は家の重石ではなく、外敵の侵入に備えて父が出入口に寝るとの説もあるのですが、いずれにせよ、おおらかな歌には違はなく素朴な男女の役割と思った、ささやかなわが原点です。

この度『別冊』の下稿整理に携わりながら、どの下稿もあふれ出る文章と言葉に圧倒されました。特集に対して、実際に社会人になりギャップを肌で感じている人、お国柄によるのかさほど実感していない人、現役学生の理論派、ギャップなる指数に疑問を持つ人、などなどのそれこそ年齢性別で多種多様な主張を読ませてもらいました。若い世代の寄稿者それぞれが、人として格差のない平らかに生きられる社会を思い描いていると頼もしく、酷暑の8月は、アジ風の底力を改めて強く感じる、熱量いっぱい盛夏でした。

ハイハイやよちよち歩きの幼児は人間本来のDNAが備わっているのか、男児女児それぞれの玩具に向かいます。小中高生になると、総じて女生徒がリーダーシップを発揮するのはまだそこに、社会規範が余り作動していないためでありましょう。そして大学生から社会に出ると競争原理が働き始め、いやが上にもジェンダーギャップを感じるようになるのが、こんにちの日本社会であるらしいことが透けて見えました。生まれつきの男女の違いではなく社会的に作られる性差＝ジェンダー、に深く納得したものです。その上で、これからの世は自らの意志で重石にも盾にもなれる性差＝ジェンダーであることを願います。

『別冊』18号を掌に拵けて下さいました皆さま、文字数オーバーの下稿群を見事な冊子に纏めて下さいましたPCC大洋の岡吉明様にこころより、御礼申し上げます。

原谷 洋美

別冊 Iメイト便り 第 18 号

「Iメイト交流の愉しみ」

ーアジア風に乗って Iメイト交流は広がるー

特集：日本のジェンダーギャップについて問う

☐ 発行日 2022 年 9 月 18 日

☐ 発行者 NPO 法人

アジアの新しい風

〒154-0016

東京都世田谷区弦巻 2-18-22-414

H P : <http://www.npo-asia.org>

E-mail : new-wind2006@npo-asia.org

☐ 印刷 PCC 大洋
